

熊本大学大学院法曹養成研究科
平成26年度第1期募集 法律科目試験問題

憲 法

平成25年9月1日（日） 12:00～12:45

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の中を見てはいけません。
2. 問題用紙は1枚、解答用紙は2枚、下書き用紙は1枚です。
3. 解答用紙には、熊本大学大学院法曹養成研究科の受験番号のみを記入し、氏名は記入しないで下さい。
4. 解答は横書きにして下さい。解答用紙の追加・交換はしません。
5. 解答にはボールペンまたは鉛筆を使用して下さい。
6. 問題の内容に関する質問には応じません。
7. 貸与した六法に書き込みをしてはいけません。
8. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰って下さい。

【問題】以下の設例について、設問に答えなさい。(配点：60点)

執筆の拠点を熊本に置くAは有名な文学賞の受賞歴がある著名な女流小説家である。論壇におけるAの作風は、限りなくノンフィクションに近いものとされ、現代社会に潜在する女性への暴力が作品のテーマとなっている。デビュー作であった、A自身の生い立ちと執筆に至るまでの年月を綴った自伝的小説『先生の恋人』は、当時の文学賞の二冠を達成するほどであった。

Aの身に起きた暴力描写・性描写における生々しく赤裸々な語り口は、当時の社会に大きなショックを与えるものとなり、Aは、一躍、時の人となった。

Aは、この夏、新たに創刊された雑誌に、学生時代の知人Bをモデルとする登場人物、在日コリアン3世の女学生「通称名 金光久美子(かねみつ・くみこ)、本名 金光美(キン・クワンミ)」を主人公とする小説を発表した。小説の舞台は大学のサークルである。サークル内で発生したレイプ事件を物語の中心に置き、日常に潜む差別意識をあぶりだす作品となっている。物語は、主人公となった「金光美」が学生生活で負った傷をきっかけに飛び降り自殺をはかろうとマンションの屋上へと立ち、それを引きとめようとする先輩に対して自らの心の傷を語るというところからはじまる。

小説では、Aが作品のモデルとしたBの生い立ちや、経歴、Bの抱える障がい(男性からの暴力の結果、顔面骨折、右目失明、その後の整形手術、義眼などのため未だに表情が硬いこと、呂律が回らず、ゆっくりとしか喋れないことなど)の悩みが細かく織り交ぜられ描かれていた。そして小説は、一度は命を捨てようと思った「金光美」が少しずつ立ち直り、逆境を乗り越えていく姿を肯定的に描くものとなっていた。

同小説は、掲載初回から大きな反響を呼び、ワイドショーなどでも取り沙汰されている。話題の小説を手にしたBは、主人公の「金光美」の名前が自らの本名に酷似しており、また、明らかに自らと特徴を同じくするものであり、自らが在籍していた大学のサークルの先輩にあたるAによって、事前の連絡もなしに、無断で小説のモデルに使用されたとして、同小説の今後の出版を差し止める訴えを提起することを検討し、あなたが所属する弁護士事務所を訪れた。

設問1 あなたがBの訴訟代理人として訴訟を提起するとした場合、訴訟において、どのような憲法上の主張を行うか、Bの訴えを根拠づける憲法上の主張を述べなさい。

設問2 設問1における憲法上の主張に関するあなた自身の見解を被告側からの反論を想定しつつ述べなさい。

以上